



唐竹晩秋 Karatake in late autumn

© photo by Isao Yoshida

“ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を”

RI会長
ロンD.バートン
2570地区ガバナー
中井眞一郎

継続 変革 簡素 充実

第 2562 例会 2013.9.25

—— 新世代のための月間 ——

天候 曇 (NO. 50-13)

会長 吉田武明 幹事 山岸敬司

例会日 水曜日(12:30~13:30) 当番 石井君、市川(洋)君

例会場: マロウドイン飯能 〒357-0021 飯能市双柳105-8
☎(042)974-4000

事務局: 飯能商工会議所内 〒357-0032 飯能市本町1-7
☎(042)974-3111(代) FAX (042)973-1662
http://www.hanno-rc.org/ E-mail: hannorc@hanno.jp

《ガバナー補佐訪問例会》

- ・点鐘 吉田武明会長
- ・ソング 手に手つないで
- ・ビジター 2013-14年度第2570地区第3グループ
ガバナー補佐 室伏秀樹様(所沢西RC)
- ・米山記念奨学生 マイ・ツン・リン君
- ・卓話 室伏秀樹様

【会長報告】

室伏補佐には11時から17項目にわたる関係書類の点検をして頂き、「管理が非常にしっかりしている」とお褒めの言葉を頂きました。ライオンズクラブのチャリティーコンペに出場された2組の方、有難うございました。マイ君に奨学金をお渡しします(拍手)。

【幹事報告】

- ・飯能保育所及び園保護者会連合会より礼状。
- ・10/9 第5回理事会
- ・公式訪問は時間厳守。3年未満の会員懇談会参加者は確実に守り下さい。年度計画発表順の変更希望はSAAまで。制服着用。

◎例会変更のお知らせ

◇所沢RC

- ・10/15(火) 移動例会 所沢商工会議所
- ・10/22(火) 移動例会 所沢商工会議所
- ・10/29(火) 例会取止 定款第6条より
- ・11/19(火) 移動例会 西武ワルツホール所沢
- ・11/26(火) 例会振替 11/28・29 地区大会

【委員会報告】

◎青少年奉仕委員会 大野君
21(土)紫雲閣・地区セミナーの報告書を配付。「青少年奉仕」を「五大奉仕」に格上げしよ

うとの事で、未来の人のためにどうするかが熱く語られました。ロータリアンだけでなく高校教諭、教育委員会の方がサポートされている事を知り、有意義な時間でした。

◎親睦活動委員会 吉田(行)君
10/4 親睦ゴルフ会の組合せが出来ました。賞品も熟慮中。どうぞ宜しく。

【出席報告】無断欠席なし 塩野出席委員長

会員数		当日		前々回修正
全数	対象	出席数	出席率	出席率
57名	6名	53名	92.59%	96.36%

【M U】

9/21 (地区) 大野君
9/24 (日高) 田辺君

【SAA報告】

◎ニコニコBOX

- ・よろしくお願ひします。飯能は地元のようにです。 室伏秀樹様
 - ・室伏ガバナー補佐様ようこそ。本日はよろしくお願ひ致します。 吉田(武)君、山岸君、山川君、間邊君、小谷野君、吉田(健)君、中里(昌)君
 - ・室伏さん、一年間身体に気をつけて頑張ってください。 矢島(巖)君
 - ・ようこそ室伏ガバナー補佐様。昨年度はお世話になりました。 安藤君
 - ・早退 大野君、橋本君、小川君、高橋君、前島君
本日計 15,000円、累計額 261,144円。
- ◎2日例会当番は和泉、市川(昭)会員です。

【卓 話】

講師紹介

吉田武明会長

「ヨシケイ埼玉」を経営。最近、飯能に広大な敷地を買われ大きな工場を造られました。中井ガバナーの補佐として12クラブをまとめて頑張っておられます。

ガバナー補佐卓話

2013-14年度 第2570地区
第3グループガバナー補佐

室伏秀樹様
(所沢西RC)

昭和20年2月9日生まれの68才。生まれも育ちも入間市野田、戸籍謄本は飯能町大字野田でした。昔、分村運動をして飯能町から分かれた方です。申し訳ありませんでした。飯能駅前「おらく」の脇にあった白百合幼稚園を昭和25年3月に卒園。5、6才で首から定期券をぶら下げて一人で元加治駅から一駅乗って通いました。椿本チェーンに勤めていた頃は高度成長期の昭和40年、仕事ばかり忙しく毎日残業で、ストレス発散のため仲町に通いました。酒の飲み過ぎで胃潰瘍になり1か月程リタイア。飯能は思い出深い地です。

埼玉では珍しい苗字ですが、父の出身、静岡御殿場の隣・小山町(おやままち)には、檀家が全員「室伏」というお寺もありました。ハンマー投げの「室伏」は三島の出身。熱海や湯河原にも結構居ります。私は昔、陸上競技100m、200mの選手だったのですけれども今では見る影も無く太ってしまいました。

仕事は「ヨシケイ埼玉」の会長。フランチャイズ・チェーン「ヨシケイ・グループ」68社の一員で東日本では第一号。昭和52年の加入、飯能給食センターの倉庫を利用して開業しました。車は5台位から。成長するにつれ所沢に本社を移し、営業所展開を拡げ、今では埼玉県下、西多摩、北多摩に計13か所の拠点、軽トラックは250台走り回っています。昔は「おんな雲助」と言われていましたが、女性の社会進出のさきがけにはなったのだろうと思います。社員教育が進み、女性の職場を女性が管理するようになると、女性から見る女性に対する目はすごくきついたので、だんだん会社も安定化してきました。今では自動車運転の「安全割引」が「68%」と、超優良企業にまで発展する事が出来ました。

協同組合飯能給食センターの経営をしていた父の事を「すごいな」と思うのは、60年代末に県内5つの協同組合の給食センターで「共同献立」をやっていたという事。地域柄、弁当の価格はそれぞれ違うわけですから、おかずの主菜(あじの焼物、まぐろの煮物等)だけを決めて全国から入札させていたのです。当時から「産地直送」を狙っていた。また、50坪の冷凍庫を建設して「時期の魚を大量に買うんだ」「サンマの時期にはトラック1台分のサンマを買う」と言っていました。弁当の価格



は他所より相当安かったと思います。その辺は父親を尊敬しています。

メニューは「3人用」「4人用」だけでしたがその後「2人用」が作られ全体の60%超に。家庭の中での孤食化、食事スタイルの変化を感じます。

父が共同仕入をしていた静岡・清水市の「清水総合食材」が「ヨシケイ」を創めました。当時、魚の卸屋であっても市場からものを仕入れれば1週間後には現金で払わなければならなかった。高速道路網が発達し関東にまで納品出来るようになると銀行への借入れがただ増えるようになる。相手は法人なので「月末締め20日払い」とかで50日位サイトがかかり事業拡大に伴って借金だらけ。金利は5%位取られたので「銀行のための会社」になってしまう。そこで何とか小売に近い状態を考えたという事なのだそうです。「現金で回収して、支払いに苦労しないようにしたい」。それが「ヨシケイ」の始まりだと言っておられました。社長のミカミヨシヒコ、専務のシマダケイスケの名前をもじって「ヨシケイ」。

時代の流れで、1種類だったメニューが今では「手作り/若い人向け/簡単/ちょっと高級/野菜のカット済み/高齢者向け/単身者用の温めるだけ/糖尿病向け」と8種類に。月～金まで毎日配達。私が一気に営業所展開した若気の至りが良い方に向いたと思っています。途中銀行に泣き付いた覚えもあります。

私は前立腺がんをやりました。血液検査で「要精検」となり、西埼玉中央病院に2泊3日、ベッドに横になっただけの針精検をやられました。下半身を脱がされ、尻に麻酔薬を塗り患部の後ろに12か所、針を刺す。「2泊3日」は患部が血だらけになるので化膿させないためとか。3か所からがんが発見されましたがMRI、CT検査では転移は無く、放射線治療を強く勧められましたが、セカンドオピニオンを郡山市・南東北病院に求めました。そこで、針精検は10年前の方法だと言われました。前立腺がんとの診断で、ホルモン療法を開始。女性ホルモンの錠剤と、1か月に1度を4回、へそ脇に、男性ホルモン抑制するリューブリン注射。がんを小さくして、そこに放射線の一種、陽子線を当てて治療していくのです。月曜から金曜まで毎日1回2分程度の照射。20分もすれば市内のホテルに戻るので、暇で仕方なかったです。最終的には37回、ホテルから通院治療しました。体に合わせてプラスチックの型を作り、前立腺に直線的に陽子線が当たるようにマジックインキで「X」マークを両側に付ける。放射線は体を突き抜けてしまうが陽子線は長さで強さを調整出来、一番強いところを前立腺の部位に当てる事が出来る。和光市にある理化学研

究所が開発したもので、放射線を高速回転させ、直線運動にして直線部分の長さを制限する。がん細胞は陽子線で痛めつけられ徐々に離れていき、正常細胞になっていくのだそうです。痛みも副作用も無く、最高の治療法だと思いますが全額個人負担。288万3千円は日本中8か所、全て同額でした。がん保険に2口入っており「200万円は出るな」と思っていましたら、65才からは半額という事で100万円しか出ませんでした。

ロータリーは平成元年の入会で25年経ちました。「ロータリーは親睦」と考えていたので難しい事は何も分からず「手続要覧」頼み。私の次の年度の会長予定者がPETS(会長エレクト・トレーニング・セミナー)に出席したにも関わらず、夫人の健康上の都合で急遽会長を辞退され、「手続要覧 第10条第5節C」により2年連続の会長を受ける事になりました。2回、3回の会長経験者は居ても、2年連続の会長は居ないと聞きました。所沢から、いろいろ話題の中井ガバナーが選出されたので、市内5クラブの会長幹事会で「中井年度を支えよう」と決議、「一番ベテラン」という事で私がガバナー補佐に推薦されてしまいました。6月まで会長をやっていたので地区の仕事はやった事はありません。

「ガバナー補佐の役目」。昔の「分区代理」は分区の代表としてクラブの意見を集約し地区に持ち上げる、どちらかと言うとガバナーに物申す立場でしたが、「ガバナー補佐」は「ガバナーの分身」であり、ガバナーのなすべき事のうち補佐で出来る事を分担し、地区のクラブ支援活動をより有効なものとするべく、その役目があるとありました。地区の方針を押し付けるわけではなく、クラブの抱える諸問題を直にお聴きしガバナーに報告し、問題解決についてガバナーを始めとして地区の役員で図っていく事が一番重要な事と思います。

中井ガバナーは考え方が個性的でいろいろ誤解を生んでいます。所沢5クラブはガバナーを支え、新風を吹き込んでもらう事を託しました。補佐は地区の任命者で、RIの役員はガバナーが唯一です。中井ガバナーは、ロンD.バートンRI会長のテーマ「ロータリーを实践しみんなに豊かな人生を」を推進し地区内クラブを支援して、「変革 継続 簡素 充実」のバランスのとれた地区運営を目指します。地区予算は人頭分担金を7月1日の会員数により2万円とし以降の増強分は負担無し、35才以下の会員は1万円という画期的な事を言っております。是非増強に努めて頂きたい。地区分担金無しで入れればクラブ運営に役に立つのではないか。印刷物を大幅に減少させ「ガバナー月信」は会長幹事にメールで報告、他の会員には各クラブでプリントまたはメールをする、と言っております。

地区大会は11月28日(木)、会長代理夫妻歓迎晩餐会を川越プリンスホテルで開催。こちら

は会長幹事だけの出席だと思います。29日(金)所沢市民文化センター。中井ガバナーが所沢市長時代に建設したMUSE。「自分で作った場所で地区大会をやるガバナーはたぶん私だけだろうな」とおっしゃっていました。

「会員増強」。12万人入会して12万人退会する現状を打破し世界で130万人を目指す事が決定済み。若い世代の入会を増やすため各クラブが規則や伝統を変える事が必要かもしれないとバートンRI会長は述べています。

田中作次RI前年度会長と日本の研修リーダーは、去年7月1日、8万7698人だった会員を、今年6月30日には10万人に、次年度末10万5550人、14年度末に11万100人にする「作次大作戦」をしています。目標値を乱暴に日本の地区数34で割り、当地区のクラブ数52で割ると「純増7名、次年度純増3名、2年間で10名」が目標となりますが、とてもそのようにはいっていない現状です。

ガバナーは、地区行事や会合を極力減らし会議をする場合は時間短縮に努め、「会議2時間、懇親1時間」に、と言っています。

あるRI理事の発言を以下に引用します。

この7年間、世界のRCは110万人の新会員を迎えていた。しかし、どんどん入ってくる会員が次々に出ていってしまう。クラブの多くが錆びた穴だらけの古いバケツに化してしまっただけです。この「自然減」の結果、ロータリアンであることの価値は低下し公共イメージが損なわれ、各クラブの影響力が低下しています。クラブ会長に勧誘の方法を教え、会員増強コンテストに奮い立たせても長期的な変化は見られません。RCはアイデンティティー、自己認識の危機に接しているとも言えるのかもしれませんが。いろいろなロータリアンに「ロータリーとは何でしょうか」と問いかけてみると、少し考えた後、実に多種多様な答えが返ってくる。このような、共通意識が無いかのように見える事はロータリーの中核的ジレンマであり非常に重大な難問でもあります。ロータリーに一致したアイデンティティーが無いという事はロータリーに方向性が無いように受け取れます。自分達がどのような団体なのか理解し、対象層にこれを効果的に伝える事が出来ないうちは、会員増強の問題は解決出来ないのかもしれませんが。しかし、その解決に向かって私達に出来る事があります。それは、ロータリーのブランド構築に注目する事です。ブランドとは自分達に対する期待であり、人々への約束、つまり自分達がする事全てにおいて守っていく約束です。効果的ブランドはその組織を際立たせます…

日本のロータリアンは(太平洋の島々を除き)3月末で34地区、8万8208名でした。最も多かったのは1996年11月末の13万982人。第2570地区では1994-95年、95-96年度が2838名でした。現状は、3月末1749名、6月末1709名、7月1日には1696名に減り、

その後8月1日に1714名に増えています。
時間がありますので、日本の食料問題についてお話ししたいと思います。

ここ数年世界の流れが激しく、日本にとって食料確保すら厳しい時代に大変化しています。ヤクルトは「5円値上げ」をいち早く宣告。アベノミクスのお蔭で食品輸入国日本は大変な状況に陥っています。円安で輸入が増えれば物の値段が上がります。あちこちで値上げを言い始めている。とてもやっていけない状態に食品産業はなるのではないかな。

「日本食育フェア」を分かり易くレポートした記事が某紙に掲載されていました。「子どもの味覚は3、4才までに確立される。その時期にヘンな物ばかり食べさせたら一生ヘンな味覚をもつ人間になってしまう」とショッキングな発言をするのは京都大学の伏木教授。マヨネーズを1回の食事で1本使い切るマヨラー。ラーメンに砂糖をジャブジャブ入れるアイドル。サラダ油をコップ一杯一気飲みする若者。ごはんをサイダーをかけて食べるスポーツ選手。ジャンクフードしか受け付けられない若者…怖いのはこんな人種が増えている事。欧米人と違い、日本人の体質は脂肪を溜め込んでしまうタイプ。そのためインスリン分泌能力は欧米人の半分しかない。「日本はアメリカ程、肥満大国ではない」…違います。日本人はぶくぶく肥満になる前に糖尿病になってしまう、肥満が少なく感じるだけなのです。一体どうすればいいのかな。

離乳食と同時に嗜好のしつけをきちんとしなければいけない。全ての動物は「砂糖(糖質)」「脂肪(脂質)」「だしの旨味(タンパク質)」の3つに病み付きになるおいしさを感じ取る。この3つは生命維持に必要な3大栄養素だから。ところが、病み付きになる分、歯止めが利かず食べ過ぎてしまう。それが生活習慣病に繋がる。脂肪+砂糖=ケーキ、脂肪+だし=ラーメン、砂糖+だし=牛丼、どれもつい食べたくなるものばかり。3つの中で「だし」は体に悪くない。だから、将来の成人病予防を考えると、子どもに「だし」のおいしさを感じさせると良い。「だし」は砂糖に比べ子どもへのアピールは地味だが、味覚と臭覚の記憶は離乳期から始まる。この時期にきちんとしたものを食べさせないと偏食になる。徹底的に鰹だしの旨味をうまいと思わせる。それには親が子どもの前でおいしそうに食べる事が重要。子どもは親を見る。嗜好のしつけさえしておけば、子どもがカレー、ハンバーグ、ジャンクフード好きになるのは構わないとの事。

4年前、米国・テキサスに行きました。牛肉の本場でおいしいものでしたが、肥満で膝を悪くした人が多いのにびっくり。50才以上の人の5人に1人は杖。連日のステーキ責めに音を上げて、日本料理店に行って驚きました。値段はステーキの4倍程度の高価格にも関わらず予約で満員。もっと驚いたのは、ス

マートな人ばかりがお客さんだった事。健康を気遣う人には日本食が定着しています。

先日のテレビではカリフォルニアで大流行の甘酒を取材。酒粕ではなく麴の甘酒。どこのスーパーでも「ヘルシードリンクAMAZAKE」としてペットボトルで売られている。レモン味、グレープ味もあり、手作り用に麴そのものも売られていました。日系人が事業化したのではなくアメリカ人が会社を作っている。「日本食ブーム」は日本人が知っている事以上に奥深く浸透しています。「スローフードはイタリアから」と、わざわざ勉強に行ったり出版物が出されていますが、日本食の優れている事を知らないのは日本人だけかと思えます。

農林水産省の発表では、食料自給率は昭和40年の73%から平成22年は39%へ大きく低下しています。現在、カロリーベースで40%、飼料用を含む穀物の自給率は28%。世界173か国で124位。人口1億人以上の国では最低。高地のスイスの60%よりも悪い。穀物は米が95%の自給、小麦14%、大麦8%、大豆5%。ごはんは1口食べると自給率が1%向上するそうですので、おかずよりごはんを余計に食べれば自給率の向上になるのかなと思えます。

消費者の食に対する志向は、最も強いのが「健康と安全」。外食産業は平成10年以降、縮小傾向で、平成10年比で平成22年は94%になってしまいました。24.2兆円。あれ程、新規出店が続いていたが外食産業は激しい落ち込みをしている。コンビニ「惣菜弁当」の台頭で昼食市場が奪われてしまった。

我が国は、自国の農地の2.5倍に相当する1200万ha分を海外の農産物に頼っています。農産物の輸入は世界でダントツ1番。耕作放棄地は38万haで、東京都全体の1.7倍。耕作面積は北海道では1軒当たり17ha。採算が取れるようになったのではなく、普通の農家で5千万円、酪農家では1億円の借金が当たり前だと聞きました。

魚の文化は1992年と比較して137%と世界的に拡大。養殖は258%に増大。世界一は中国5568万トン。2位はペルー。3位は日本で608万トン。日本の養殖漁業は93%と縮小傾向。世界は圧倒的に養殖漁業に進んでいるが、日本では昔、餌にイワシばかりやるので、イワシ臭いハマチがどうも体に合わないと毛嫌いされたり、海苔が着かないよう網に有機水銀系のものを塗ったためハマチが奇形になったりした事があった。最近は改善され、とらふぐが陸上養殖出来たり海水濃度が10分の1で海の魚を育てる技術も確立、タンクの水を回転させて肉質の締まった魚も獲れるようになった。養殖魚も是非利用して頂きたいと思えます。

所沢は5クラブに分かれましたが、飯能は1クラブを維持したお蔭で今、いい関係が出来ているのではと会長とお話しました。

※次週の例会案内は省略。